

事例8-8



取組名	「草刈り隊」の活動を通じた担い手人材の育成		
町会名	9丁目町会（寿台地区）	町会 データ	・人 口／345 人 ・世帯数／164 世帯 ・高齢化率／45.5% ・町会加入数／117 世帯 ・隣組数／17 組
取組概要	○ 町会内の主に清掃活動・環境美化活動を推進するため、「草刈り隊」を組織 ○ メンバー間の親睦を深め、結束力を高めるとともに、将来の担い手人材を育成		

背景・課題

- ・ 役員の引受け手がなかなかいない。組長に選出された人に、順番に役員をお願いしているが、公民館の文化・体育などの委員選出が負担になっている。
- ・ 当町会では、70 代後半から 80 代前半の女性が突出して多く、女性の一人暮らし高齢者も多い。子どもから若年層はどの年代も少ないが、特に 10 代後半と 20 代が少ない。
- ・ R5 年度、連鎖的に町会の脱会が続いた。「高齢で役員できないから」という高齢者世帯が 3 世帯、「町会に入っているけどメリットを感じられないから」という 30～40 代の世帯が 3 世帯あった。
- ・ コロナ前までは、研修旅行や焼き肉大会、もちつき大会など実施していたが、役員の負担が大きいため、再開しようという動きにはなっていない。

- ・ 草刈り隊のメンバーは、町会長宅で焼肉会を行うなど、公私において親睦を深めている。

成果・今後の展望等

- ・ 草刈り隊の活動を町会活動に位置づけることで、衛生費の中から謝礼を出せるようになった。町会内の草刈り隊に対する理解も進んでいる。
- ・ 寿台 2 丁目町会でも草刈りボランティアが組織されているため、今後交流などできたらよい、という意欲も出てきている。
- ・ 町会長宅で実施する焼肉会は、日程調整して声掛けすれば、メンバーのほぼ全員が集まるくらいの結束力になっている。
- ・ 町会活動への理解が進み、草刈り隊の中には「自分が退職したら、町会長をやってもいい」という人も出てきている。

経過・取組内容

- ・ 草刈りボランティアを行う「草刈り隊」を組織している。50～60 代の 11 人が参加し、そのうち 7 人は寿台生まれ・寿台そだち、4 人は転入者。
- ・ 草刈り隊のメンバーは、現町会長が、町会で一緒に活動した人などに声がけして集めた。
- ・ 現町会長は着任して 10 年。「町会長を 10 年もやればどこに誰がいるかは、だいたい分かるようになる。」というように、長年にわたって築いてきた個人的なネットワークが役立てられている。

【ポイント】

- ▼ 活動を通じた人間関係の構築と地道な声がけにより、町会人材を育成、集団化